

固定チームナーシング研究会 北海道地方会だより

北海道

固定チームナーシングでやりたい看護を実践しよう！——目指す看護・介護に近づくため

第12回北海道地方会大会長
鵜川啓子

[IMSグループ道南森ロイヤルケアセンター看護部長]

第12回北海道ブロック地方会は、当初2022年9月17日に予定をしていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、12月17日に延期して開催となりました。

当日は13:00～16:30、院内からオンラインで配信しました。病院18施設および介護老人施設2施設の合計20施設から、160人の参加がありました。

現在、看護を取り巻く環境や社会情勢が変化していることもあり、看護・介護は多岐にわたる仕事を抱えることで、日々の業務を優先してしまう現状があります。自身が持っている看護観、介護観で看護、介護を提供することが困難に思えてしまい、「このコロナ禍において、やりたい看護・介護を開示できずにいるのではないだろうか？」という課題を感じました。

固定チームナーシングの目的の1つ、「看護スタッフのやりがいの獲得と自己実現をめざす」では、やりたい看護・介護を開示できる環境をつくっていくことが大切であり、自身の看護観、介護観をチームで支援、相談・協力することで患者様によりよい看護・介護



が提供できることにつながると思いました。そこで、今回の北海道地方会では「固定チームナーシングでやりたい看護を実践しよう！～目指す看護・介護に近づくために～」をテーマにしました。

当日は、はじめに北神洋子先生より基調講演「固定チームナーシングを機能させる部署運営」を賜りました。

演題発表では、以下の通り、8演題の発表がありました。

【1群】

- ①「COVID-19重症患者の看護 チームでの取り組み」
- ②「チームで行うウォーキングカンファレンス～転倒を防ぐために入院環境を整える～」
- ③「多様化するニーズに対する取り組み」
- ④「コロナ病棟のチーム活動報告」

【2群】

- ①「ADLの向上と転倒予防を両立するための多職種での取り組み～『転倒転落レベル3b以上 0件』を目指して～」
- ②「利用者の望む生活に繋がるチーム活動を目指したカンファレンス運営～施設・自宅で取組む介護リハビリの提供～」
- ③「介護リーダー育成への取り組み」
- ④「個別性のあるケアの提供～離床に向けた取り組み」

コロナ禍における看護・介護の提供、患者様、利用者様とのかかわりのなかで取り組んだ成果の発表でした。北海道地方会を通して対面している問題や課題の解決になるヒントとなり、質の向上へと導くことにつながり、固定チームナーシングの発展の機会となりました。

第13回北海道地方会は2023年9月16日(土)開催予定となっております。次回の開催では対面でお会いできることを楽しみにしております。

第23

回固定チームナーシング研究会近畿地方会は「変化に対応する看護力～固定チームナーシングを活かしてこれから取り組むこと」をテーマに、2022年11月3日関西医科大学講義室2室で開催しました。参加者は管理者やリーダークラスが中心で、19施設より112名の参加となりました。

COVID-19の影響で地方会の開催方法も変化し、2021年はWeb開催となりましたが、対面でのグループワーク(以下、Gw)ができず淋しい思いが残りました。2022年は対面形式を前提に9月の開催を告示して募集を始めたところ、コロナ感染が拡大し、やむなく開催を断念しました。しかし、役員一同奮起し11月開催に向けて再度準備を進め、なんとか今回の開催が実現しました。

開催冒頭では、新会長の北神洋子会長に、固定チームナーシングの今後の展望について熱く語っていただきました。

今回のテーマに関してですが、コロナ禍を通じて医療・介護・福祉・保健などあらゆる領域で「看護の力」が発揮され、改めて看護職の重要性と価値が明らかになり、社会の期待がさらに高まったと言えます。

このようなコロナ禍において、各施設で取り組まれた様々な看護実践・看護教育・看護管理に関する4題の発表がありました。それぞれの発表の随所に固定チームナーシングで培った応援機能の応用や小集団活動で養われるコミュニケーションスキル、さらに危機的状態下において看護管理マネジメントなどが報告されました。

発表後は西元勝子先生から「固定チームの組織図を明確に表し、各自の役割が意識化できることが重要である」とのコメントがありました。北神先生からもご意見などを交えた講評をいただき、和やかな空気に包まれました。

待望のGwは、25グループに分かれて少人数で行ないました。理想的な人数設定の効果で、活発なワークとなりました。講義室2か

近畿

固定チームナーシング研究会 近畿地方会だより

第23回固定チームナーシング研究会近畿地方会ブロック長
安田照美[関西医科大学統括看護部長]

所の開催であり、事前に杉野元子先生に訪問してアドバイスをいただいたことで密な調整ができ、Gwは大盛況に終わりました。

アンケートでは「有益な意見交換ができた」「悩みを持った管理者どうしの話を聞くことができて、やる気が出た」「今後に活かせる方法が見つかった」などの声が寄せられ、明日からの行動につながるお土産を持ち帰っていただくことができました。これがGwの醍醐味であり、近畿ブロック地方会の特徴であることを改めて実感しました。

次回第24回は、2023年10月7日(土)ニプロiMEPで開催を予定しております。「小集団活動でやりがいのある看護に導きたい」など、管理者の悩みをGwで解決しましょう。



イラスト提供: 杉野元子先生

変化に対応する看護力——固定チームナーシングを活かしてこれから取り組むこと